

季節の観察メモ

クリの花

2004 年 5 月 15 日

世の人の見付けぬ花や軒の栗
芭蕉

5月から6月にかけて、クリの花
が咲き出します。長さ10～20cm
の黄白色の花穂が、毛虫のように

垂れ下がっていますし、散った花穂も地面に群がるゲジゲジのようで、あまり美しいとは言い
難いものです。何にもましてあの独特の臭いが人を寄せ付けないためか、可愛い栗の赤ち
ゃん(雌花)はあまり知られていないようです。

クリの花には、雄花と雌花があり、長い花穂は雄花の集まりです。雄花は4～5mm の長
いおしべを持つ花の集まりが、尾状に連なってなかなか賑やかです。一方、雌花の集まりは、
花穂の根元に1～2個ひっそりとしています。雌花は直径3mm ほどの若い(総苞)に
普通3個入っています。いかに入った栗をそのまま小さくした姿です。この3つの花が実った
とき、あの艶やかな3つの栗になるのです。

栗の花時、枝をそっと手元に手繰り寄せ、クリの赤ちゃんを眺めてみてください(篠原智男)
栗の花に来る虫

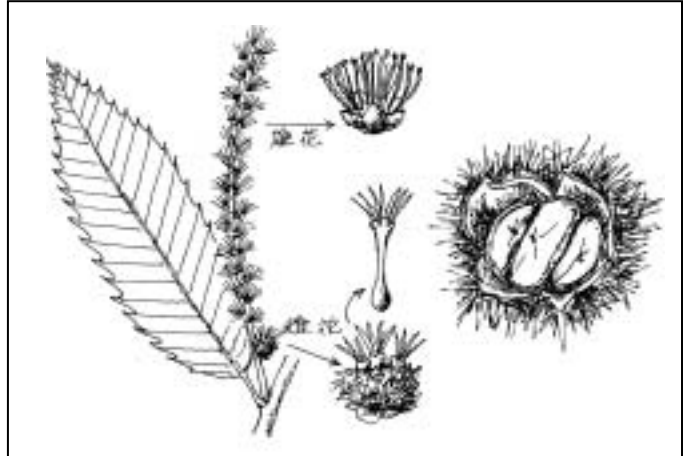
赤塚公園城址地区の北側入り口に栗の木が数本植えられている。5 月半ば過ぎ、この栗
に花が咲くと、色々な虫が集まってくる。この内 2 種類の昆虫を紹介しよう。

アカシジミ

羽を広げると4cm ならず、モンシロチョウより一回り以上小さい、朱色のチョウである。高い
ところにいることが多いので双眼鏡を持っていくと良い。時期は 5 月半ばから 6 月半ば頃、
花に来る時間は午後の方が多いうだ。このチョウ、花に来るときはゆっくり飛んでいるが、
夕方そろそろ薄暗くなる頃、行動が一変する。クヌギなどの高い木のとっぺんを猛烈な勢い
で飛び回るのだ。幼虫はクヌギやコナラの葉を食べる。

板橋区ではここ 30 年以上全く記録されなかったチョウで、最近再発見されたばかりである。
細々と昔から生き続けていたのか、それとも最近、新座や所沢など遠くの雑木林から飛んで
きて、居着いたチョウなのか結論はまだ出ていない。

オオスズメバチ



社会性のハチでは世界一大きいハチ、これが栗の花に蜜を吸いにやってくる。大きいだけに毒も強いし、攻撃性も強く、危険度ナンバー1 のハチである。とはいえ、巣に近寄らなければ刺されることはほとんど無い。無闇に恐れる必要はないが、捕まえようとしたり、追い払おうとしたりすれば保障の限りではない。気づかずに接近遭遇したときは、じっとしているか、ゆっくりと後ろに下がれば良い。

蜜を吸うのはエネルギー補給のためで、幼虫のためには、色々な昆虫を狩ってきて食べさす。ミツバチの巣を襲って全滅させるので、養蜂業者の大敵である。

社会性のハチにとっての最大の試練は、最初の働き蜂を育てあげる迄である。越冬から目覚めた女王蜂はたった 1 匹で、巣を作り、幼虫の餌を集めなければならない。野外でよく見るハチの小さな空巣はこの時期に女王蜂が死んでしまったものである。昆虫界一の強者オオスズメバチでも事情は同じである。板橋区でも毎年 5 月から 6 月ごろまではオオスズメバチが見られるが、夏以降は見つからない。去年は夏に働き蜂が採集されたので、どこかで営巣に成功したのであろう思っていたら、大きな巣が見つかり退治されてしまった(釣巻岳人)